



# 進路だより

R2. 11. 18  
第3学年 8号  
安古市高校進路指導部

## <受験スケジュールを立てよう>

これまで、受験スケジュールについては進路 LHR 等で話してきましたが、国公立大学個別学力検査（2次試験）については、一般入試の場合、叡啓・国際教養大学など一部の大学を除くと「前期日程」「中期日程」「後期日程」の組み合わせで最大3校の受験が可能です。しかし、前期日程で合格し、入学手続きを取ると、他の中・後期日程は合格対象とならないため、第1志望は前期日程で受験することが一般的です。共通テスト後、1/25（月）～2/5（金）が出願期間です。自己採点結果を踏まえ、これまで検討してきた大学（前期・中期・後期）に同時に出願することになります。前期日程の2次試験は2/25（木）～なので、この間に私立大学入試を受験し、一方で国公立大学の2次試験対策をしなければいけません。したがって、国公立大学が第一志望の人はできるだけ私立大学入試の負担を減らして、2次試験対策の時間を確保していく必要があります。

## <私立大学の受験>

2学期末（12月）の三者懇談では、私立大学の受験校を決定していきます。それまでに次の点に留意して私立大学の受験計画を立てましょう。

（1）実力に応じて、模擬試験判定がA～C程度の大学を設定します。国公立大学が第1志望の人は、できるだけ私立大学入試の負担を減らして、2次試験対策の時間を確保していく必要があります。そのためには共通テスト利用型（共通テスト利用）を組み合わせるとよいでしょう。浪人を防ぐためには、出願する国公立大学の判定にもよりますが、A判定の所に2つ出願することを勧めます。その場合、1つは共通テスト利用ではなく、必ず実際に受験する方式で受験します。**共通テスト利用2つで押さえをつくっても共通テストが失敗した時には押さえにはなりません。**私立大学を第一志望に考えている生徒も同様です。判定が厳しい所に複数出願しても決して押さえにはなりません。

（2）受験パターンは複数あるので、各大学のホームページで**早めに受験日程等の確認をしましょう。**主な入試スタイルには、試験日自由選択制（試験日を2日以上設定してあり、受験生の都合の良い日に受験できる制度）・方式別入試（入試科目や配点が異なる複数の選抜方法から選択して受験できる制度）・全学部統一入試（全学部の入試を同一日に実施する制度）などがあります。

（3）地方試験会場を設置している大学があります。各大学のホームページ等で地方試験会場を確認しておきましょう。大学の所在地以外の地域に受験会場が設けられており、広島で実施される大学も多くあります。

（4）個別入試以外に共通テスト利用型や共通テスト試験併用型など共通テストを利用する入試も設けられています。共通テスト利用型の受験料は一般入試よりも受験料が安く、わざわざ試験場に足を運ばなくても良いというメリットもあるので、うまく組み合わせるとよいでしょう。

## スケジュールのチェックポイント

### □入試科目が統一されているか

国公立大学の2次試験と私立大学の受験する科目はなるべく統一して、各科目の対策時間を十分確保しましょう。

### □入試対策のムダはないか

私立大学の出題傾向は大学によって異なります。難易度・志望にあまり差がないようであれば、同一校を複数日程で受験する方が、多くの場合、効率化を図ることができます。

### □入試方法は自分にあっているか

科目の少ない入試等は、特定の科目が得意な受験生が集中し、また**募集人数も少ない場合が多い**ので高倍率入試になる傾向にあります。

### □受験日程の最初が目標校になっていないか

最初の受験日は緊張しやすいといわれています。できれば最初は難易度が高い大学から受験し、合格の手応えをつかみ、自信を持って本命に臨みましょう。

### □受験日程が3日以上連続していないか

本番の入試は想像以上に疲れます。体力・集中力を考え、実力を最大限発揮できるように受験日程を考えましょう。

### □入学金を重複して支払うことはないか

大学に合格した場合、指定期日までに入学手続きをしないと入学資格は無効となります。**入学手続きの締切日を確認**して、入学金などの多重支払いをできるだけ回避できるプランを考えましょう。